大飯原発差止訴訟・原告団の12名による

福島交流ツアーの報告

2013年11月26～27日

▲津波被害から再建された相馬市松川浦のホテル前にて。
左端は案内していただいた福島の方。

もくじ

■ まえがき ・・ 2
■ 福島交流ツアーの概略 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
■ 参加した12名の感想 ・・ 15
■ 福島県南相馬市・相馬市及びその周辺地域における
空間線量測定 ・・・ 32
■ 大飯原発差止訴訟の原告募集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
■ 大飯原発差止訴訟 原告団 結成のアピール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

■まえがき

大飯原発差止訴訟　原告団長 竹本修三

2013 年 9 月 14 日、京都弁護士会館で開催された「9・14　原発ゼロをめざす学習会」で、福島原発事故訴訟（生業訴訟）原告団長の中島 孝さんによる「福島第一原発事故の実相と実態、被害の実態に学ぶ」という講演があった。実際に被害をこうむった当事者の生々しい報告には迫力があり、それを聞いた私はいたく感動した。学習会のあと、中島団長と親しく話をして、 福島生業訴訟原告団と大飯原発差止訴訟京都原告団との連帯を強めていこうと約して別れた。

翌週、私は中島さんにメールを送り 2 つの原告団の交流会と福島県相双地区の被害状況の視察を兼ねて、京都の原告団有志で相双地区を訪問したいが受け入れてもらえるだろうかと打診した。早速中島さんから「相馬地方を視察したいとの由、ぜひお時間をおつくりいただきたいと存じます。当地の原告団メンバーで、ガイドをする仕組みもできております。現地との交流も兼ね、お話を伺いたいと楽しみにしております」という返信メールが届いた。さらに 10 月 17 日に中島さんから届いたメールには、「11 月 26 日（火）、27 日（水）であれば、地元の受け入れの体制として一番都合がよいです。『相馬新地、原発事故の全面賠償をさせる会』の事務局長の村松孝一さんという方が、大型の免許を持っており、マイクロバスのレンタカーで強制避難区域等を案内できます。また、26 日夜の宿泊・交流会の場所は、相馬市の松川浦にあるホテル『みなとや』が最適でしょう」と書かれていた。

そこで、京都訴訟原告団の吉田明生事務局長と相談した結果、11 月 25 日（月）の夜行高速バスで京都から福島に向かい、26 日（火）の朝に福島駅に着いてから路線バスで原ノ町駅まで行き、現地の世話人と合流してマイクロバスで相双地区の被害状況を案内してもらったあとで、夜は松川浦のホテルで福島生業訴訟原告団との交流会。27 日（水）は引き続き、被害状況を案内してもらってから福島駅から夜行高速バスで京都に向かい、28 日（木）の朝に京都に帰着、という 1 泊 4 日（往復車中泊）という強行軍の「弾丸ツアー」を計画した。この計画を京都訴訟原告団のメーリング・リストに流したところ、12 名の参加希望者があった。

参加メンバー表を中島さんにメールでお送りしたところ、返信メールに中島さんは生業で忙しく、「被災地フクシマの旅」実行委員会代表の新妻慎一さんに詳細なスケジュールを組むように依頼したので、ツアーの詳細は新妻さんと連絡を取り合うように、との指示があった。そこで、新妻慎一さんと吉田明生さんの間でツアーの細部を詰めて、ようやくこのツアーが実現した。ツアーの概略については、次の吉田さんの報告に書かれている。

■福島生業訴訟（福島原発訴訟）…「生業を返せ、地域を返せ！」福島原発訴訟。東京電力福島第一原発事故の被災者たちが国と東京電力を相手取り、原状回復と慰謝料一人当たり月額 5 万円を求めて 2013 年 3 月、福島地裁に起こした裁判。第一次原告は、800 名。9 月 10 日の第二次提訴の原告は、1159 人。合わせて 2000 人近くと、全国で最大クラスの原告団を有する訴訟となっている。

原告団・弁護団は同訴訟の意義として、▽東電だけでなく国の責任を明らかにすることを通じて被害者の諸要求を制度化させ、原告にとどまらない全体救済をめざす▽全国の原発差止訴訟や「原発ゼロ」の取り組みと連帯する―ことを強調しています。

原告団長の中島孝さん（下の写真、横断幕を持つ最前列の左から 3 人目）は、地元の魚屋、仕出し屋の「中島ストア」を経営されています。

（▲『生業を返せ、地域を返せ！』福島原発訴訟原告団・弁護団の Web より）

■相双地区…福島県の太平洋側、浜通りの北部で、相馬地区と双葉郡の総称。相馬地区は、相馬市、南相馬市、相馬郡（新地町、飯舘村）からなる。双葉郡は、福島第一原発のある大熊町と双葉町、福島第二原発が立地する楢葉町と富岡町のほか、浪江町、広野町、川内村、 葛 尾村の 8 町村からなる。【地図→ p.14】

■「9・14 原発ゼロをめざす学習会」…主催したのは、「原発ゼロをめざす京都ネットワーク」（ゼロネット）。原発ゼロをめざしてネットワークをつくり、連携を強め、活動強化をはかろうとする目的で、2012 年 7 月に結成。世話人団体は、以下の通り。京都地方労働組合総評議会（京都総評、連絡先）、自由法曹団京都支部、京都府商工団体連合会、日本科学者会議京都支部、京都母親連絡会、新日本婦人の会京都府本部、京都民主医療機関連合会。

なお、京都には、脱原発を願う個人や団体のゆるやかな情報ネットワークとして、「バイバイ原発・京都」もあり、やはりこの学習交流会へ参加を呼びかけていた。いわば、全京都注目の集会であった。

2013 年 9 月 15 日は、民主党政権の下で再稼働した大飯原発が停止し、再び日本全体で原発ゼロになる日であり、この前後には脱原発の取り組みがとくに高まった。

■福島交流ツアーの概略

大飯原発差止訴訟　原告団 事務局長 吉田明生

[1] ツアーのガイドブック

今回のツアーは、「福島の悲しみを知ってください。原発被災地を歩くガイドブック」（B5 版 20 ページ）（『相馬新地、原発事故の全面賠償をさせる会』発行）をもとに、二人の方に丁寧に案内していただきました。感謝してご紹介します。

・新妻慎一さん。

二日間、全般的な案内をしていただきました。「被災地フクシマの旅」実行委員会代表。名刺には「原発被災地に来て、見て、聞いて、原発を考えてみませんか。お世話をさせていただきます。」とある。元高校の日本史の先生。【→ p.12 左下写真】

・村松孝一さん。

二日間、大型の 15 人乗りレンタカーを運転しながら、案内していただきました。『相馬新地、原発事故の全面賠償をさせる会』事務局長。この「会」は福島生業訴訟（福島原発訴訟）の原告の会ではないが、協力関係にある。元 JR 労働者で、右ガイドブックのイラストレーターでもある。【→表紙写真の左端】

浪江町立請戸小学校から見える東京電力福島第一原子力発電所の排気筒やクレーン。毎日教室からこの光景が見えていた。三月十一日以後、津波と放射能に追われ、子どもたちは全国に避難し四散した。

福島の悲しみを知ってください。

原発被災地を歩く
ガイドブック

非売品

発行…
相馬新地・原発事故の全面賠償をさせる会
の手作りです。
（二〇一三年十月版）
相馬市成田字五郎右エ門橋三七三

目次

被災地写真（浪江町・南相馬市小高区など）2・3頁
津波浸水範囲地図…4頁
被災高校生の手記…5頁
仮設に暮らして…6頁
マンガ　村松孝一…7頁
詩　若松丈太郎…8・9頁
被災地案内イラスト地図…10・11頁
詩　吉田信…12頁
放射能豆知識13・14頁
短歌・俳句…15頁
協力団体名簿…16頁
放射能汚染地図…17頁
被災地写真（新地町・相馬市・飯舘村）18・19頁
避難区域地図…20頁

[2] 現地に着くまで

11 月 25 日（月）…参加した原告は全部で 12 名であったが、うち 10 名は夜行の高速バスで、京都（うち 1 名は大阪）より出発した。京都駅八条口 21:53 発の福島行き高速バスで出発（車中泊）。

しかし、東名高速などでの事故のため、コースが中央自動車道経由に変更になった。このため、福島到着時刻に遅れが出ることになった。

11 月 26 日（火）…高速バスは福島駅東口着 08:24 の予定であったが、1 時間ほど遅れそうになったので、バスの乗組員に相談した。その結果、急遽、郡山駅でバスを下車することにし、あたふたと新幹線に乗り換えた。10 人分の切符を買い、新幹線ホームへ入って、ホッとする。新幹線は、予定通り福島駅に 08：36 着。福島駅で、さいたま市、須賀川市から参加の原告と合流して、12 名が揃った。お互いに初対面が多い。

（▲新幹線乗車の記念の乗車券と特急券。竹本団長）

朝食の間もほとんどなく、福島駅西口発 09：00 の路線バスで JR 常磐線原ノ町駅前へ向かう。途中、道の駅「川俣（かわまた）」で休憩。

11：00、原ノ町駅前に到着し、福島生業訴訟の原告団の方々と合流した。記念撮影。

（▲ようやく着いた JR 原ノ町駅前で記念撮影）

レンタカーに乗せてもらい、11：25 頃に南相馬市・原町区の道の駅「南相馬」に着く。早めの昼食をとって、ようやく一息ついた。

[3] 南相馬市の小高（おだか）区など

(1) 12 時すぎ、南相馬市・小高区（避難指示解除準備区域）へ。志賀勝明さん（相馬双葉漁業協同組合請戸（うけど）ホッキ会の会長）に、被災した自宅など、海岸近くを案内してもらう。

（▲右手前が志賀さん。向こう側が被災したご自宅だが、まだ新築の感じ。土台を 1m くらい高くしてあったためか、流されなかった。津波は、1 階の中央位まで達したとのこと。ガラス戸に、津波が来た高さまで汚れが残っていた。周辺の家々は流されてなくなった）

志賀さんは、浪江町（なみえまち）でホッキ貝の漁をしつつ、40 年前から原発反対運動にとりくんできた。漁協青年部から除名されるなど、強い風当たりをうけながら、闘う。最近、東北電力が画策していた「浪江・小高原発」建設計画を断念させた（2013 年 3 月関係自治体が反対を決定）。

（▲志賀さんの家の近くの海岸、堤防が壊れている。堤防の向こうが、すぐ海）

（▲このすぐ右側が海。左方の家々は流失）

（▲墓石だけ集めた臨時の墓地）

（2）続いて、吉澤正巳さんの「希望の牧場」を訪れて、訴えを聞く。晴れていたが、風が強かった。道端の牛の糞の上で、放射線量が 5 マイクロシーベルト/ 時（5 × 24 時間× 365 日＝ 44 ミリシーベルト/ 年）をこえ、この日に訪れた場所では最高の線量値を記録した。

『希望の牧場』募金のお願い

―お寄せいただいた募金は、動物たちの命をつなぐため大切に使います―

【お振込先】
［ゆうちょ銀行口座振替・銀行振込からの振り込み］
記号・番号：10140-59459781
口座名義：希望の牧場福島プロジェクト
（キボウノボクジョウフクシマプロジェクト）
＊ゆうちょ銀行・郵便局のATM利用、ゆうちょ門窓間振替は手数料無料です。

［他の金融機関からの銀行振り込み］
金融機関名：ゆうちょ銀行
店　　名：〇一八（ゼロイチハチ）
店　　番：018
種　　別：普通
番　　号：5945978
名　　義：キボウノボクジョウフクシマプロジェクト
＊お振込の際の手数料はご負担となります。何卒ご了承ください。

Smile is here.
希望の牧場
Kibou no Bokujou Fukushima
～ふくしま～
http://fukushima-farmsanctuary.blogspot.jp/

警戒区域からの声なきSOS
見捨てられた命があることを
知っていますか？

Smile is here.
希望の牧場
Kibou no Bokujou Fukushima
～ふくしま～
http://fukushima-farmsanctuary.blogspot.jp/

『希望の牧場・ふくしま』浪江農場
〒979-1501 福島県双葉郡浪江町立野字小野157

『希望の牧場・ふくしま』事務局
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-22-7 道玄坂ビア4F
TEL: 03-3496-2177 FAX: 03-3496-2188
E-mail: kibouna.bokujou@gmail.com

（▲「希望の牧場」のパンフレット）

吉澤さんは、国の殺処分指示に抗して 350 頭の放射能汚染牛を飼育している。粗飼料は、汚染された稲わらをもらってきて使用しているとのこと。なお、インターネットで「希望の牧場」と検索すると、牧場の実際の様子を見ることができる。

（▲広大な「希望の牧場」の牛と、なだらかな阿武隈高地の山並み）

(3) 午後 2 時頃、南相馬市小高区の市街地にはいる。

・鈴木安蔵（やすぞう）の生家…鈴木安蔵は 2007 年の映画『日本の青空』のモデルで、戦後に憲法草案を提案した憲法学者。治安維持法違反第一号としても知られる。地震で壊れた生家は、ある程度片付けられていた。

・商店街…地震の被害を受けたまま放置された店がある。家具店の中は、家具が倒れたまま。ただ、地元の信用金庫は営業していた。「営業中　おかえりなさい！」と書いてあるのが、かえって誰も帰っていないことを物語るかのようだった（復興の印ということで、形だけの営業か？）。ひなびた町並に、人通りは見られない。時間が止まっている。

・JR 常磐線小高駅…駅は休止中。駅前の置き去りにされた通学自転車置き場を見る。あの日のままになっているはずだが、“震災ボランティア”の手で清掃、整備されたようだとのこと。

（▼倒れたままの家具が散乱する家具店）

（▼あぶくま信用金庫小高支店）

（▼未だに片付けられない地震のあと）

（▼人通りのない大通り）

(4) 県立原町高校の近くの駐車場で待ち合わせて、福島県高教組（福島県立高等学校教職員組合）、女性部長の大貫昭子さんから、震災と小中高校生の生活、学校の変化などの話を聞く。

『福島から伝えたいこと』（第 1 集、第 2 集）という冊子に、教師、生徒、保護者などの生の声がまとめられている。

(5) 浪江町（なみえまち）（避難指示解除準備区域）への見学は、名簿を提出して事前申込をしてもらっていたが、許可が出なかった。町が町内への立ち入りを禁止して、民間業者に警備を委託、道路を封鎖している。

■避難指示解除準備区域…放射線の年間積算線量が 20 ミリシーベルト以下となるとされた地域。2012 年 4 月 1 日から「避難区域」が再編されて、設定された。当面の間、引き続き避難指示が継続されるので、昼間の立ち入りはできるが、そこでの生活はできない。「復旧・復興のための支援策を迅速に実施し、住民が帰還できるよう環境整備を目指す」ことになっている。住民は区域内へ夜間を除いて出入りすることができ、昼間に製造業などの事業を再開することもできる。【地図→ p.14】

■浪江町立ち入り申請…浪江町は今年の 4 月に一部立ち入り自由になった町で、原発の排気筒などが見えるとのこと。この町は防犯上、町独自に警備を行い、車両チェックをしている。したがって、立ち入りを申請して許可を得なければならない。以前はゆるやかであったが、最近は厳しくなったとのこと。

そこで、予め申請して許可を得るため、「被災地フクシマの旅」実行委員会の方で申請を代行してもらった。申請に必要なデータは、参加者の名前と個々の方の携帯番号（緊急時連絡先）、立ち入り車両の車体番号。しかし結局、許可されなかった。なお、浪江町の「希望の牧場」は南相馬市に接するので、そちらから訪問することができた。